

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「高志・卓行」の校訓の下、普通科・英語科・理数科それぞれの特色を活かしつつ、お互いが切磋琢磨することにより、高い学力と豊かな人間性を身につけ、次代を見据えた新たな価値観を見出せる学校
教育目標：「よりよい社会の創造に積極果敢に挑戦する人材」の育成
1 知的好奇心を持ち、自ら課題を発見し、その解決に向けて努力できる人材
2 高い自尊感情を持ち、自らの考えを積極的に発信できる人材
3 他者を尊重し、協働して物事をなそうとする人材

2 中期的目標

1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成
（1） 「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取り組み
ア 公開授業や研究授業を積極的に行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。
※ 令和8年度学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を 85%以上に する。（R4 82% R5 82%）
イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。
※ 令和8年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指 数を90%以上にする。 生徒（R3 83% R4 83% R5 84%） 保護者（R3 75% R4 92% R5 91%）
※ 令和8年度学校教育自己診断（生徒）において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を 80% 以上にする。（R4 73% R5 78%）
※ 令和8年度学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を 85%以上にする。 （R4 88% R5 84%）
※ 令和8年度学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を 85%以上にする。 （R4 86% R5 88%）
（2） 「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化
ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的な思考力・判断力・表現力を育成する。
※ 令和8年度学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を 80%以上にする。 （R4 79% R5 78%）
イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施
※ 令和8年度学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を 95%以上にする。 （R4 92% R5 95%）
（3） 自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用
ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。
イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。
※ 令和8年度学校教育自己診断（生徒）において、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を 70%以上にする。（R4 57% R5 54%）
（4） ICT 活用の推進
ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICT を積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。
※ 令和8年度学校教育自己診断（教職員）において、「ICT 機器を活用して指導を行っている」の指数を 98%以上にする。（R3 90% R4 98% R5 100%）
（5） 第5次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進
ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立
※ 令和8年度において、生徒の図書館貸出冊数を 2000 冊以上にする。（R3 724 冊 R4 852 冊 R5 1443 冊）
2 安全安心で魅力ある学校づくり
（1） 生徒指導
ア 「遅刻ゼロ」「自分から挨拶」運動の推進による基本的生活習慣の習得および規範意識の向上
※ 令和8年度学校教育自己診断（生徒）において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数を 85%以上にする。（R4 84% R5 87%）
※ 令和8年度において、遅刻件数を 1000 件未満にする（R3 1067 件 R4 1790 件 R5 2月末現在 1821 件）
※ 令和8年度において、年間皆勤の生徒を全校生徒の 35%以上にする。（R3 37% R4 36.1% R5 20%）
イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。
※ 令和8年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を 90%以上にする。 生徒（R3 87% R4 94% R5 92%） 保護者（R3 75% R4 89% R5 93%）
ウ 全教職員・生徒で、ごみの減量および分別化を推進する。
エ 校内清掃活動の日常的実施および地域と連携したボランティア活動を推進し、生徒の相互扶助精神を養う。
※ 令和8年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を 80%以 上にする。 生徒（R3 78% R4 76% R5 89%） 保護者（R3 57% R4 80% R5 79%）
オ 「開かれた学校づくり」をめざし、HP を活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。
※ 令和8年度学校教育自己診断（保護者）において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に発信している」の指数を 90%以上に する。（R4 88% R5 89%）
（2） 特別活動（学校行事、部活動）の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォロワーシップの育成
ア E-Fes（体育大会・文化祭）等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。
※ 令和8年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、自主性を重んじた指導が行わ れている」の指数を 90%以上にする。 生徒（R3 85% R4 88% R5 90%） 保護者（R3 79% R4 91% R5 91%）
イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。
※ 令和8年度において、部活動加入率を 90%以上にする。（R3 82% R4 79% R5 82%）
※ 令和8年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を 85%以上にする。 生徒（R4 80% R5 82%） 保護者（R4 88% R5 86%）

- (3)

教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成

ア

人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。

イ

芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自他尊重の精神を養う。

※

令和8年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を90%以上にする。生徒（R3 83% R4 92% R5 89%） 保護者（R3 72% R4 86% R5 88%）

※

令和8年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数を95%以上にする。生徒（R3 92% R4 91% R5 92%） 保護者（R3 89% R4 92% R5 93%）

ウ

いじめ防止対策委員会を中心とし、いじめの未然防止および事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。

※

令和8年度学校教育自己診断（教職員）において、「いじめや体罰（その疑いを含む）の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数を95%以上にする。（R4 96% R5 100%）
- (4)

生徒支援の充実

ア

支援教育推進委員会を中心に生徒情報の共有化に努めるとともに、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点を踏まえた支援を行う。

※

配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度を85%以上にする。（R4 88% R5 100%）

イ

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させる。

※

令和8年度学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を85%以上にする。生徒（R3 76% R4 86% R5 87%） 保護者（R3 58% R4 85% R5 84%）
- 3

進路指導・キャリア教育の充実

(1)

生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実

ア

HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。

イ

進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組みを促進する。

ウ

進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。

※

令和8年度学校教育自己診断（生徒）において、「HR や進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を80%以上にする。（R4 80% R5 77%）

※

令和8年度学校教育自己診断（生徒）において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を80%以上にする。 生徒（R3 70% R4 78% R5 78%）

(2)

保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上

ア

保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。

※

令和8年度学校教育自己診断（保護者）において、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を75%以上にする。 保護者（R3 50% R4 74% R5 73%）

(3)

進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実

ア

大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。

イ

進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。

※

令和8年度学校教育自己診断（教職員）において、「進路についての適切な情報を生徒に知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を95%にする。（R3 80% R4 96% R5 95%）

(4)

生徒の希望する進路の実現

ア

生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、進路結果についての生徒の満足度を高める。

※

令和8年度卒業生のうち、進路結果についての生徒の満足度を90%以上にする。（R4 89% R5 87%）

※

令和8年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を60名以上にする。（R3 44名 R4 35名 R5 68名）

(5)

令和6年度学校経営推進費事業「東創究学」（E-PLANET）構想

ー学校図書館の探究空間創設と自習室の機能強化による東高校のさらなる学究化を目指してー

※

令和8年度において、現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格率を40%以上にする。

※

令和8年度において、図書館を利用した授業を年間50回以上おこなう。

※

令和8年度において、学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を85%以上にする。（再掲）

※

令和8年度において、生徒の図書館貸出冊数を2000冊以上にする。（再掲）

※

令和8年度において、学校教育自己診断（生徒）において、「普通科、英語科、理数科の3学科並置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を90%以上にする。（再掲）

4

チーム東高校として課題解決にあたる教員集団の確立

(1)

学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり

ア

学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。

イ

学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。

ウ

有事において、教職員へ円滑な情報伝達を行うとともに、早期解決に向け、組織的に対応する。

※

令和8年度学校教育自己診断において、「教職員間で、生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を75%以上にする。（R4 70% R5 83%）

※

令和8年度学校教育自己診断において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数を80%以上にする。（R4 78% R5 83%）

※

学校教育自己診断（教職員）において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数を90%以上にする。

(2)

働き方改革としての業務の平準化、効率化

ア

学校部活動指針の遵守及び全校一斉定時退庁日の遵守を推進し、時間外在校等時間の縮減を図る。

※

令和8年度までに、教職員の平均時間外在校等時間を年次減少させ、令和5年度比5%以上減とする。（12月現在 R4 38時間25分 前年度比5%増 R5 36時間51分 前年度比4%減）

※上記、各指標における「指数」とは、各アンケート等に対する「肯定的な意見の割合」をさす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習活動】 学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数が85%、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数が79%であった。また学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数は生徒85%、保護者95%であった。そのための取組みとして6月および11月の2回、各2週間の相互授業見学を実施した。授業を見学した教員から受け取った「授業見学カード」や授業アンケートの結果をもとに、各教科で授業改善に向けて取り組んだ。とりわけ今年度より全面実施となった観点別学習状況の評価についての研究をより一層深め、生徒の学習状況を適切に把握し教員の指導の改善につなげることに より、より効果的な授業づくりに取り組んでいる。 ○理数科 学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数は86%であった。学習効果があったと考えられる具体的活動は次の通りである。 ・1年生は、宿泊野外実習や探究基礎実習を実施し、実物に触れる体験と研究者との対話を体験させることで、自然科学的な思考力や探究心の向上が図れた。また1人1台端末を活用した発表会も実施でき、プレゼンテーション能力の向上を図れた。 ・2年生での先端科学研修では東京大学や筑波研究施設群を訪問し、学校では得ることのできない最先端の研究や技術に触れることができた。理数探究では、生徒が主体的に実験の組み立てから結果の考察までを行うことができた。また、大阪サイエンスデイやSSH生徒研究発表会へも参加し、他の高等学校の生徒と意見交換や議論を通じた交流を行うことができた。校内の発表会ではすべての生徒が1人1台端末によって実験の成果を発表し、プレゼンテーション能力の向上とともにICT機器の積極的な利用もできた。 ・大学の教授や社会人の講師を招いて行う講演会「レクチャー」を、進路編(3年)、物理学編(2年)、医学編(1年)、地球学編(1年)、情報編(1年)と幅広い分野にわたって実施した。生徒の進路実現や科学的思考の向上に大いに役立った。 ○英語科 学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数は87%であった。異文化研究、ディベート・ディスカッション、時事英語では、NET（外国語指導員）とのティームティーチングにより、異文化理解の活動を行った。活動では常に英語でのプレゼンテーションを意識し、英語で表現する力の養成に努めている。また姉妹校交流やオーストラリア短期研修、短期体験留学生の受け入れ等を通し、例年以上に国際交流活動を盛んに行ったことが、功を奏したと考えられる。 ○探究活動 学校教育自己診断（生徒）における「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」生徒の指数は76%であり、今年度の目標を達成した。また、学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数も98%であり、今年度の目標を達成している。さらに、学校教育自己診断（教職員）において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数は98%であり、十分な目標を達成している。 図書館利用に関しては、貸出冊数が1月16日時点で1502冊であり、今年度の高い目標を達成することができた。図書館（新たに改装されて完成した探究空間E-PLANETの利用を含む）の授業利用は補習を含め、同日時点で29回であり、十分な目標を達成している。今年度は、探究活動・図書館経営ともに非常に充実した一年となったが、次年度以降、この勢いを維持し、向上させるには、物的支援・人的支援が不可欠である。現状のままの運営では校務に圧迫されて授業等に支障が出かねない。また、図書購入費もかなり手厚くしてもらえたが、それでも資料の充実には、寄贈本などに十数万円と頼っている現状がある。さらなる支援を求めたい。 ・主に第2学年の「総合的な探究の時間」において、2学期より少人数での探究活動を行った今年度は班分けに際して生徒への細かなカウンセリングも実施したこともあり、非常に質の高い活動ができていた。また、第1学年では「論理コミュニケーション」のプログラムを例年通り実施したが、今年度の生徒の検定結果は過去最高数の「A」評価者数を第2回の検定の時点で出した。今年度は探究に関する教職員対象研修を実施できなかったが、次年度は探究空間E-PLANETを活用した研修も実施したい。探究活動の情報交換は毎週担当者間で実施し、今年度は細かなことまで相談したうえで探究活動を進めることができた。さらに、全校的に授業において教員はICT機器を活用した学びを推進しており、課題のデジタル化も進んできた。ただ、教室のプロジェクターの不調が生じるととたんに授業計画が狂うこともあるため、デジタル以外のアナログ対応の手段も常に有して授業対応を考える必要がある。 ・図書館の書籍貸出冊数は10月15日時点では1032冊であった。この日以降、2学期と3学期当初で約500冊の貸出を達成できた。授業利用も10月15日時点で13回であった。この日以降で16回の利用があった。毎週の第2学年の「総合的な探究の時間」での図書館開放も盛況であり、生徒は毎週のように図書館を活用していた。 【生徒指導】 ・学校教育自己診断（生徒）において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数は88%で昨年度より向上した。年間の遅刻件数については、12月末の時点で、前年比120%を超えた1774件であった。個に応じた指導が必要な背景を抱えた生徒の増加傾向がみられ、画一的な早朝登校指導では改善しきれない状況であり、一方で寝坊による遅刻は全体の33%となっており、遅刻数改善の希望は存在している。 ・一年間皆勤の生徒は全校生徒の15%であり、目標を見直す必要が生じる結果となった。 ・学校教育自己診断（保護者）において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数が87%であった。今年度は学校HPにおいて、277件の新規記事を更新した(1/14現在)。新入生の91%が本校HPを出願前に閲覧し、そのうち94%の生徒が参考になったと、新入生アンケートにおいて回答していることから、広報活動の一つの柱として今後も継続していきたい。また保護者への情報発信ツールとしても一定の評価を得ることができた。 【特別活動】 学校教育自己診断（生徒・保護者）において、①「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数は生徒88%、保護者94%であった。また、部活動加入率85%であり、学校教育自己診断（生徒・保護者）において、②「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数は、	第1回学校運営協議会（令和6年4月22日） ・「特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む」について。昨年度の結果は素晴らしい。中長期的な視点で、今後は、理数科、英語科の取組みを単独ではなく、相乗効果がでるような取組みにしていきたい。⇒探究活動では進めている。カリキュラムや行事などで進めていきたい。 ⇒国際交流も、英語科だけではなく、普通科や理数科も参加している。探究活動も相乗効果の可能性を秘めている（英語科は英語での発表）。 ・東高校の強みについて。現在、進学実績も順調に向上している。高校入試においても中学生や保護者から選ばれる学校として毎年高倍率を保持しているのは良いことである。選ばれる学校としての理由を把握し、その点については変えずに伸ばしていく方がいいのではないか。 ⇒DXハイスクール事業においても、今までの良さを活かしながらDXの要素を加味していく地道なカリキュラム開発がよいのではないか。地域の連携に加え、大学や研究機関等との連携は高校側からも重要になってくる。 ⇒変わる時はビジョンをカウンターパート等と共有することが大きなポイントになる。教職員同士の対話や研修など、学び合いの機会を教員同士でいかに確保していくかというところが、チーム東にかかってくる。 ⇒SSH校であった際の経験をふまえ、新しいチャレンジをする際も、先生方や生徒の負担がかかりすぎないよう意識する必要がある。 第2回学校運営協議会（令和6年11月21日） ・大学見学会について。全学年の保護者から、大学に対して時間が足りなくなるくらいの活発な質疑が大変たくさん出た。非常に良い催しだった。企画していただきありがたく思う。 ・第1回で提言した、理数科と英語科の取り組みを相乗効果が出るような取組みとなるよう長期的な視野で検討するための具体例について、探究活動を、全体発表とは別に英語によるプレ発表を、ロングホームルームの時間を活用し、英語科・理数科の生徒4人1組で実施したらどうか。取組みにより、さらなる東高校の価値向上につながると期待している。 ⇒段階的に、例えば昨年度より増加している海外の体験留學生に対し、まずは少人数から提案いただいた試みをスタートしてはどうか。最終的には2月の生徒研究活動発表会で、英語で発表する機会があってもよいだろう。 ・ここ数年、国公立への志望者が増え、それに応じて進学者も増えている印象である。国公立大学総合型選抜に東高校の探究の学びが存分に活かすための今後の方向性についていかがか。 ⇒3年計画の学校経営推進費の活動が柱になっている。知見のある外部講師を招いて生徒への指導と共に教員研修も行う取組みを3学期に予定している。 ・東高校は長年探究をベースにした活動を実践してきた。その資産を活かす「E-PLANET」が非常に大きな起爆剤になりうると考えられる。 第3回学校運営協議会（令和7年2月7日）

府立東高等学校

生徒 80％、保護者 88％であった。各項目の分析は次の通りである。

- ・①について E-fes 体育の部に関しては、体育祭実行委員が中心となって、みんなが積極的に参加可能な種目をプロデュースした。また E-fes 文化の部での幕間の有志団体の発表を企画したり、間口の広い内容を生徒会執行部が企画したり運営したことが、自発的な活動の下地を創り、自主性の涵養につながっていると思われる。
- ・②について ホームページでの部活動の活動報告等の記事をアップしていくこともまだまだ必要である。部活動の加入時期は「いつでも可能」としているが、年度当初に入部しなかった生徒がそのまま未所属となっており、まだ加入率の上昇の余地はあると考える。

【保健指導】

学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数は、生徒 94％ 保護者 90％であった。そのための取組みは次の通りである。

- ・4 月の健康診断、後日の受診において、すべての生徒が各種検診を終えた。検診結果を踏まえて学校医の指導・助言のもと、「受診のお願い」を配付し、適宜、個別指導を行った。また、定期的に「健康教育だより」の配信や掲示を行った。

学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数は、生徒 78％ 保護者 80％であった。そのための取組みは次の通りである。

- ・保健美化委員が清掃に関するポスターを作成し掲示した。2 学期末には清掃強化週間を設定し、保健美化委員がクラスメイトに美化を呼びかけた。また、文化祭等を通して、保健美化委員会を中心にゴミの分別を、責任を持って行った。

配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度は 100％であった。具体的な対応は次の通りである。

- ・「高校生活支援カード」の内容や会議を通じて、生徒情報を共有し、当該生徒に必要な学習面、生活面等の配慮を行った。

学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数は、生徒 89％ 保護者 87％であった。そのための取組みは次の通りである。

- ・SC や SSW が定期的に生徒・保護者にカウンセリングを実施し、教職員への助言を行った。また、教育相談委員会にて定期的に SC・SSW との情報共有を行った。

【人権教育】

学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数は生徒 91％、保護者 89％であった。効果があったと考えられる主な活動は次の通りである。

- ・SNS 人権教育講演会（5 月）、芸術鑑賞会（1 年生 6 月、2 年生 8 月、3 年生 7 月）、人権講演会（11 月）、教職員・PTA 人権教育研修会（12 月）

学校教育自己診断（教職員）において「生徒の問題行動およびいじめや体罰（その疑いを含む）の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数は 98％であった。7 月、12 月のいじめアンケートの結果をふまえ、事案と思われる事象について早急に聞き取り調査を行い、いじめ防止対策員会で情報共有し、速やかに対応したことが功を奏したと考えられる。

【進路指導】

- ・生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実については、「HR や進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の自己診断（生徒）の指数は 81％であり、主体的に進路について考える生徒の割合が高くなってきており、講話や講演会の効果があらわれていると考えられる。
- ・保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上については、「生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の自己診断（保護者）の指数は 78％と昨年度に比べて向上しており、保護者対象の講演会および進学説明会の効果が表れている。
- ・進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実については、「進路についての適切な情報を生徒に知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導を行っている」の自己診断（教職員）の指数は 96％と高く、学習支援クラウドサービスを活用した情報提供や学年会での情報共有が効果的だったと考えられる。
- ・自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用については、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の自己診断（生徒）の指数は 57％と目標には至らなかった。家庭学習の重要性をよりいっそう講話などで伝えるとともに、模試の振り返りや次回への目標設定をより実践的に活用できるように改善したい。

【学校運営】

- ・学習支援クラウドサービスの活用について、学校教育自己診断（教職員）において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数は 86％であった。会議や研修等の情報共有や生徒の欠席連絡、災害時等における対応において、学習支援クラウドサービスを活用し、迅速に情報共有、業務の連携、効率化を図ることができていた効果だと考えられる。
- ・意見・提案しやすい環境づくりについて、学校教育自己診断（教職員）において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数は 86％であった。将来構想検討チームなどにおいて、学校の現状把握を行い、また課題解決に向けて検討、計画、実践を進めることができた。
- ・有事における対応において、学校教育自己診断（教職員）において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数は 92％であった。昨年度末に見直した『防犯及び防災計画』、『危機管理マニュアル』を 4 月に作成し、避難経路および役割の確認を行った。さらに 6 月に実施した避難訓練の結果をもとにブラッシュアップし、9 月の避難訓練に臨むことができた。
- ・教職員の平均時間外勤務時間は、令和 5 年度比 4％減であった。安全衛生委員会の報告やアラーミングメールの活用、会議のペーパーレス化や部活動指導員の導入などを進め、時間外勤務時間の縮減の啓発とともに、負担軽減の方策の継続が功を奏したと考えられる。

- ・学校教育自己診断のアンケートに情報リテラシーに関する設問が必要ではないか。
- ・学校教育自己診断「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力が身についた」の数値が、生徒と教職員で乖離している。この乖離を埋める必要がある。

⇒教員については、これまでの積み重ねにおいて、探究活動指導も含めた知見が蓄積され、実践の中で手ごたえを感じていると解釈できる。それが効果として生徒に現れるのはタイムラグがあるのかもしれない。推移を見守って行く必要がある。

⇒2 年普通科の総合的な探究の時間における取組みも活性化しつつある。数値は今後向上すると考える。生徒自身が自己評価に関して控えめなところもある。

⇒生徒自身が関係性に気づいていないことがある。関係性を伝え、理解させる必要がある。

- ・生徒にとって主体的に学ぶというのがどうということなのかという理解・認識を得る必要があるのではないか。態度と思考力を分けて質問してはどうか。

- ・南海トラフ地震が発生した際の津波被害について、必ず遭遇するものと想定して準備が必要ではないか。

⇒本校の防災計画については区役所に送付済み。府への移管時において確認された避難所設置計画より、本部という扱いではなく、1 避難所の扱いである。

- ・学校教育自己診断「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の数値が、生徒と教職員で乖離しており、教職員は年々下降している。背景は何か。

⇒学校教育自己診断によると、子どもが非常に学校を安心して、笑顔で来れているというのは学校にとってうれしいことである。ここで例えば遅刻何回したらペナルティーと厳しく指導すれば、遅刻は減るかもしれないが、この数値も一緒に減るかもしれない。世の中のバランス考えながら、学校も求められるものが変わってきていると感じる。

⇒必ずしも低いから注意すべきとは限らないのではないか。教員が指導しなくても十分できているということもあるのではないか。

- ・学校教育自己診断「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の数値が低い。私立高校は土曜授業や放課後に塾による講習を行っている。対応が必要である。

⇒何をもって自学自習と言うのか、保護者・教員目線と生徒目線が異なる可能性がある。

- ・指導対象となる遅刻のとらえ方およびアプローチの転換について。

⇒遅刻が重なってきたら行う罰則的な指導に代わり、対話を通じて原因究明するアプローチへと転換する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 知識の理解の質の向上と高い学力の育成	(1)「わかる授業」から「生徒が主体的に考える授業」をめざした授業改善への取組み ア 公開授業や研究授業を積極的に行うとともに、授業見学カード、授業アンケート等を活用して授業改善に組織的に取り組む。	(1) ア・教員の授業力向上をめざし、年次研修の研究授業に加え、年間2回の公開授業（相互授業見学）を実施し、「授業見学カード」等を活用し、意見交換を行う。	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数を80%以上にする。[R5 82%]	(1) ア・学校教育自己診断（生徒）において、「適切なレベルと進度で授業を行い、教材や教え方について工夫がなされている」の指数が85%であった。(◎)
	イ 特色ある教育活動を推進する。特に理数科においては科学的思考力の育成、英語科においてはグローバルな視点を身につけさせるよう取り組む。	イ 【理数科】 ・身の回りの事象について科学的な視点を身につけるため、1年生宿泊野外実習や探究基礎、2年生理数科先端研修における実験や体験学習等を行う。 ・科学・技術への関心を高めるとともに、自己の進路や将来像を考えるため、大学教授による講演（レクチャー）を実施する。 ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上をめざし、「課題研究」において共同研究および校内発表会を実施するとともに、外部発表会にも参加する。 【英語科】 ・異なる文化や価値観に対する理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力の向上に向け、「英語集中ゼミ（探究活動）」を行う。また、グローバルな視点を身につけるため、講演会を実施する。 ・英語でのコミュニケーション能力を身につけるため、NET（外国語指導員）との交流をはじめ、姉妹校交流、国際交流への参加を積極的に進める。	イ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を80%以上にする。[R5 生徒84% 保護者91%] ・学校教育自己診断（生徒）において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数を75%以上にする。[R5 生徒78%] 【理数科】 ・学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数を80%以上にする。[R5 理数科生徒84%] 【英語科】 ・学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数を80%以上にする。[R5 英語科生徒88%]	イ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「普通科、英語科、理数科の3学科併置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数は生徒85%、保護者95%であった。(◎) ・学校教育自己診断（生徒）において、「教育活動を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についた」の指数が79%であった。(○) 【理数科】 ・学校教育自己診断（理数科生徒）において、「教育活動を通して、科学的な視点が身についた」の指数は86%であった。(◎) 【英語科】 ・学校教育自己診断（英語科生徒）において、「教育活動を通して、グローバルな視点が身についた」の指数は87%であった。(◎)
	(2)「探究活動」の一層の推進による主体的・対話的で深い学びの充実・深化 ア 「探究活動」「課題研究」において、主体的に学ぶ態度、論理的思考力・判断力・表現力を育成する。 イ 「探究活動」に関する教員のスキルアップに向けた教員研修の実施 (3) 自学自習の習慣を身につけさせるための学力のプロセスと現状を確認できるツールの活用 ア 学習支援クラウドサービスを活用して、生徒自身が進捗状況を確認する。	(2) ア・社会に対する生徒の興味・関心、研究に対する意欲を高め、主体的に学ぶ態度、論理的思考力を身につけるため、1年生を「探究基礎」、2年生を「探究実践」と位置づけ、少人数のチームで「探究活動」を実施する。 イ・全教員が「探究活動」の趣旨目的を共有し、生徒の活動を充実させるとともに指導助言力を向上させ、教科指導等にも活かせるよう、定期的に情報交換会、教員研修を実施する。 (3) ア・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用して、学習の振り返りを行う。	(2) ア・学校教育自己診断（生徒）において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を75%以上にする。[R5 生徒78%] イ・学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数を90%以上にする。[R5 教職員95%] (3) ア・イ ・学校教育自己診断（生徒）において、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数を70%以上にする。[R5 生徒54%]	(2) ア・学校教育自己診断（生徒）における「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」生徒の指数は76%であった。(○) イ・学校教育自己診断（教職員）において、「日々の教育活動や研修を通じて『探究活動』に関する理解を深めている」の指数は98%であった。(◎) (3) ・学校教育自己診断（生徒）において、「自学自習や家庭学習の習慣が身についた」の指数は57%であった。(△)

府立東高等学校

	イ 全国模試を活用することにより、学力定着度等について確認する。 (4) ICT 活用の推進 ア 生徒の学習意欲向上および学習保障に向け、ICT を積極的かつ効果的に活用し、どんな状況においても学びを止めない体制を構築する。 (5) 第5次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進 ア 図書館の利用促進および読書習慣の確立	イ・年間3回の全国模試の結果をもとに担任と面談を通じて、学力定着度や学習への取組みについて確認する。 (4) ア・授業において1人1台端末を利用した教材活用や課題作成を積極的に進めるとともに、臨時休校等に備え、日常的にWeb会議システムを活用する。 (5) ア・教科指導や探究活動などで積極的に図書館の書籍を活用する。また、生徒のニーズを把握し、オンラインを活用した図書館の書籍紹介やデジタル書籍の貸出を行う。生徒の読書意欲向上に向け、ビブリオバトルへの参加を促進する。	(4) ア・学校教育自己診断(教職員)において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数を98%以上とする。 [R5 100%] (5) ア・生徒の図書館貸出冊数を1500冊以上にする。[R5 1443冊] ・図書館を利用した授業を年間30回以上おこなう。[R5 21回]	(4) ア・学校教育自己診断(教職員)において、「ICT機器を活用して指導を行っている」の指数は98%であった。(○) (5) ア・図書館貸出冊数は3月10日時点で1502冊であった。(◎) ・授業利用は補習を含め、同日時点で29回であった。(○)
2 安全安心で魅力ある学校づくり	(1) 生徒指導 ア 「遅刻ゼロ」「自分から挨拶」運動の推進による基本的生活習慣の習得および規範意識の向上 イ 校医やスクールカウンセラーと連携し、生徒一人ひとりの心身の健康・体力を保持増進する力を育成する。 ウ ごみの減量および分別化を推進するとともに、校内清掃活動および大掃除等により、校内美化の意識を高める。 エ 「開かれた学校づくり」をめざし、HPを活用し、本校の教育活動、生徒の様子等について積極的に外部に発信する。 (2) 特別活動(学校行事、部活動)の充実によるリーダーシップ・パートナーシップ・フォロワーシップの育成 ア E-Fes(体育大会・文化祭)等の学校行事等、生徒会活動を充実させることで、生徒の自主性、協調性、創造力を養う。 イ 大阪府「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動を推進し、さらなる活性化により自立心・協調性を養う。 (3) 教育活動全体を通じた人権教育による人権感覚の醸成	(1) ア・毎日の挨拶励行に加え、生徒会、風紀委員による挨拶運動を定期的に行う。 ・年間3回の遅刻防止週間を設けるとともに、丁寧に粘り強く個別指導を行う。 イ・生徒全員に各種健診を受診するよう指導する。また、その結果や健康調査をもとに校医の指導・助言を得て、適切に健康指導を行う。 ウ・毎日の清掃と大掃除(月に1回程度)を行うことで校内美化の意識を高めるとともに、美化委員による自主的な清掃活動を促進する。ゴミの持ち帰りに関する啓発ポスターの作製・掲示やデジタル化により、ゴミの減量化・分別化に取り組む。 エ・本校の授業や学校行事、部活動の様子等について、ホームページで年間400件以上更新する。 (2) ア・生徒会執行部のミーティングを定期的に開催し、執行部の連携を深めるとともに、学校行事等に関する生徒のニーズを把握し、生徒主体の特別活動の運営を進める。 ・学年・学科、クラブの枠を越えた、東高校の一員として生徒同士のつながりを実感できる活動の場を創造する。 イ・部活動への加入を促すため、校内での表彰掲示や中庭ライブ、クリスマスライブなどの活動発表の場を創出する。 ・クラブ間のつながり、リーダーとしての意識付け、自主的な取組みを促すため、クラブ代表者会議を開催し、ひとつの学校としての一体感を醸成する。 (3)	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数を80%以上にする。[R5 生徒87%] ・年間の遅刻件数を1050件未満にする。[R5 2月末現在1821件] ・一年間皆勤の生徒を全校生徒の35%以上にする。[R5 20%] イ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数を85%以上にする。 [R5 生徒92% 保護者93%] ウ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数を生徒、保護者ともに75%以上にする。 [R5 生徒89% 保護者79%] エ・学校教育自己診断(保護者)において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数を85%以上にする。[R5 保護者89%] (2) ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数を85%以上にする。 [R5 生徒90% 保護者91%] イ・部活動加入率を85%以上にする。 [R5 82%] ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数を80%以上にする。 [R5 生徒82% 保護者86%] (3)	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)において、「基本的な生活習慣やマナーが身についた」の指数は88%であった。(◎) ・2月末現在の遅刻数は2300件だった。(△) ・一年間皆勤の生徒は全校生徒の15%であった。(○) イ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒の健康保持のための指導やけが・病気等に対する対応が適切に行われている」の指数は、生徒94%、保護者90%であった。(◎) ウ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「生徒が積極的に清掃活動・環境美化に取り組むように指導が行われている」の指数は、生徒78%保護80%であった。(○) エ・学校教育自己診断(保護者)において、「ホームページ等を通じて、教育活動等について積極的に外部に情報を発信している」の指数が87%であった。(○) (2) ア・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学校行事や部活動等を通じて、生徒が自発的に活動できるよう、生徒の自主性を重んじた指導が行われている」という指数は生徒88%、保護者94%であった。(◎) イ・部活動加入率は、85%であった。(○) ・学校教育自己診断(生徒・保護者)において、「学習と部活動の両立を大切にしている」の指数は、生徒80%、保護者88%であった。(○) (3)

府立東高等学校

	ア 人権教育推進委員会を中心とし、教育活動全体を通じて、道徳心および多様性を受容する人権感覚を養う。 イ 芸術鑑賞、人権講演会を通じて、豊かな感性や情操、自他尊重の精神を養う。 ウ いじめ防止対策委員会を中心とし、いじめの未然防止および事案発生時は組織的かつ迅速、適切に対応する。 （４）生徒支援の充実 ア 生徒情報の共有化に努めるとともに、配慮を要する生徒の実態を的確に把握し、合理的配慮の観点を踏まえた支援を行う。 イ スクールカウンセラー等の外部人材の活用により、教育相談体制を充実させる。	ア・生徒が安全で安心できる学校生活を送れるよう、生徒・教員アンケートを実施し、生活実態を定期的に把握する。不安な状況があれば、関係各所で連携し、速やかかつ組織的に対応する。 イ・各学年において年１回芸術鑑賞を実施する。また、全学年対象の人権講演会を年１回実施する。 ウ・いじめ防止対策委員会を中心に、基本的な対応について教員間で共有するとともに、積極的にいじめを認知する。 ・事案発生時は、速やかにいじめ対策委員会を開催し、情報共有のうえ解決策を検討し、適切に対応する。 （４） ア・「高校生支援カード」等を活用し、配慮を要する生徒を速やかに把握するとともに、生徒、保護者、関係部署で連携し、当該生徒に必要な学習面、生活面等の配慮を行う。 イ・スクールカウンセラーによる教員研修を年１回以上実施し、生徒一人ひとりに対する理解を深め、より適切な対応に努める。	ア・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数を 85% 以上にする。 〔R5 生徒 89% 保護者 88%〕 イ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数を 90% 以上にする。 〔R5 生徒 92% 保護者 93%〕 ウ・学校教育自己診断（教職員）において、「生徒の問題行動およびいじめや体罰（その疑いを含む）の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数を 90% 以上にする。〔R5 100%〕 （４） ア・配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度 80% 以上にする。〔R5 100%〕 イ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数を 80% 以上にする。 〔R5 生徒 87% 保護者 84%〕	ア・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「豊かな心や生き方、人権の大切さについて学ぶ機会を設け、違いを認めながら支え合う集団を育てている」の指数は生徒 91%、保護者 89%であった。（◎） イ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「明るく、充実した学校生活を送っている」の指数は生徒 94%、保護者 93%であった。（◎） ウ・学校教育自己診断（教職員）において「生徒の問題行動およびいじめや体罰（その疑いを含む）の問題について、組織的かつ迅速に対応している」の指数は 98%であった。（◎） （４） ア・配慮を要する生徒・保護者からの聞き取りによる満足度は 100%であった。（○） イ・学校教育自己診断（生徒・保護者）において、「生徒の悩みや困ったことに対して、親身な対応がなされている」の指数は、生徒 89%、保護者 87%であった。（◎）
3 進路指導・キャリア教育の充実	（１）生徒一人ひとりの進路意識の向上に向けた進路講話、情報提供等の充実 ア HR、進路講話等を通じて、生徒の進路意識を向上させる。 イ 進路決定・実現に向けた生徒の主体的な取組みを促進する。 ウ 進路や高大連携に関する情報提供を適切かつ速やかに行い、生徒の進路選択を支援する。 （２）保護者等の進路に関する共通理解、進路意識の向上 ア 保護者への情報提供を適切に行い、家庭との連携を密にして生徒の進路実現を支援する。 （３）進路実現に向けた教職員の共通理解と指導の充実 ア 大学入試等に関する最新情報を全教職員が正しく理解するとともに、大学入試改革に的確に対応できるよう指導を充実させる。 イ 進学指導力向上に向け、模試分析会、志望校検討会を充実させる。	（１） ア・各学年、年２回の進路講話および生徒の進路希望に応じたコース別説明会・学校別説明会を実施する。 ・本校独自の「進路の手引」を全校生徒に配付する。また、各学年に必要な進路情報を掲載した「進路ニュース」を年２回以上発行し、全校生徒に配付する。 イ・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用し、キャリアパスポートを学期ごとに作成させる。 ウ・学習支援クラウドサービスを活用し、国公立大学等に関する情報提供を随時教員向け、生徒向けに行うとともに、大阪公立大や関西大などの高大連携による様々なイベントの紹介を一層充実させる。 （２） ア・保護者対象の進路講演会を年２回以上、大学見学会を年１回実施する。また、保護者が相談しやすい環境をつくる。 （３） ア・大学入試等に関する最新情報について、学習支援クラウドサービスを用いて全教職員に適宜配信するとともに、進路指導主事が学年会に出席して入試動向を伝達する。 イ・模試分析会、志望校検討会では、生徒一人ひとりの能力、適性を見極め	（１） ア・学校教育自己診断（生徒）において、「HR や進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数を 75% 以上にする。 〔R5 生徒 77%〕 イウ・学校教育自己診断（生徒）において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を 75% 以上にする。 〔R5 生徒 78%〕 （２） ア・学校教育自己診断（保護者）において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を 70% 以上にする。 〔R5 保護者 73%〕 （３） アイ・学校教育自己診断（教職員）において、「進路についての適切な情報を知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数を 90% 以上にする。〔R5 95%〕	（１） ア・学校教育自己診断（生徒）において、「HR や進路講話、進路講演会等を通じて、進路に対する意識が高まった」の指数は、81%であった。（◎） イウ・学校教育自己診断（生徒）において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数は、79%であった。（○） （２） ア・学校教育自己診断（保護者）において、「進路についての適切な情報が知らされ、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数は、78%であった。（◎） （３） アイ・学校教育自己診断（教職員）において、「進路についての適切な情報を知らせるとともに、生徒一人ひとりの能力・適性を見極め、きめ細かい進路指導がなされている」の指数は、96%であった。（○）

府立東高等学校

	(4) 生徒の希望する進路の実現 ア 生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行い、進路結果についての生徒の満足度を高める。 (5) 令和6年度学校経営推進費事業「東創究学」(E-PLANET) 構想	るため、担任、関係教員の意見を全員で共有する。 (4) ア・定期的に面談に必要な資料提供を行い、生徒の希望や適性等に応じた適切なガイダンスおよび個別面談を行う。また進路閲覧室の活用を促すとともに、進路に関してきめ細かいアドバイスを提供する。 (5) ア・総合型選抜対策講座を開講し、さらに新図書館という学びの場を通じて、生徒の希望する進路の実現を支援する。 イ・図書館の改装に伴う書籍や棚の整理およびレイアウト変更と設備のリニューアルを行い、学びのハブとしての読書活動・探究活動を深め、さらに自習室機能を増強する。また、利活用時を促し、生徒の諸活動をサポートする。 ウ・学びのハブとしての書籍の配架に際して、生徒の興味を惹き、学びの質と生きる力の向上に寄与する書籍を選定する。	(4) ア・令和6年度卒業生のうち、進路結果についての生徒の満足度を85%以上にする。[R5 87%] ・令和6年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者を50名以上にする。[R5 68名] ・現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格者率を15%以上にする。 (5) ア・令和6年度において、現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格率を15%以上にする。(再掲) イウ・図書館を利用した授業を年間30回以上おこなう。(再掲) ・令和6年度において、学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数を85%以上にする。(再掲) ・令和8年度において、生徒の図書館貸出冊数を2000冊以上にする。(再掲) ・令和8年度において、学校教育自己診断(生徒)において、「普通科、英語科、理数科の3学科並置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数を90%以上にする。(再掲)	(4) ア・令和6年度卒業生のうち、進路結果についての生徒の満足度は、87%であった。(○) ・令和6年度卒業生のうち、現役で国公立大学合格者は、52名であった。(○) ・現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格者率は、36%であった。(◎) (5) ア・現役での国公立大学合格者のうち、総合型選抜での合格率での合格率は、36%であった。(◎) イウ・図書館を利用した授業は補習を含め、3月10日時点で32回であった。(○) 11月以降は、2年普通科の総合的な探究の時間において、探究活動および中間発表会を図書館で実施した。 ・学校教育自己診断(生徒)において、「探究活動を通じて、主体的に学ぶ態度、論理的思考力等が身についた」の指数が、76%であった。(○)(再掲) ・図書館貸出冊数は3月10日時点で1658冊であった。(◎)(再掲) ・学校教育自己診断(生徒)において、「普通科、英語科、理数科の3学科並置の特色を生かした教育活動の充実が図られている」の指数が、85%であった。(◎)(再掲)
4 チ ー ム 東 高 校 と し て 課 題 解 決 に あ た る 教 員 集 団 の 確 立	(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む環境づくり ア 学習支援クラウドサービスの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化を図る。 イ 学校の課題に適した教員チームを中心として、主体的な教員集団を確立するとともに、意見・提案しやすい環境づくりに努める。 ウ 有事において、教職員へ円滑な情報伝達を行うとともに、早期解決に向け、組織的に対応する。 (2) 働き方改革に関する取り組み ア 学校部活動指針の遵守及び全校一斉退庁日の遵守の推進 イ 教職員への啓発と意識改革及び業務の平準化、効率化	(1) ア・日々の連絡から緊急連絡に至るまで、必要に応じて学習支援クラウドサービスを活用することで、業務の効率化を推進する。 イ・年度目標の達成に向けた校務分掌を組織するとともに、学校課題を解決するための教員チームを設置し、教職員の主体的な行動を促進する。 ウ・災害等が発生した場合、管理職から教職員への情報伝達および対策や指示が円滑に行われる組織体制を整える。 (2) ア・学校部活動指針の遵守及び全校一斉定時退庁日の遵守を推進し、時間外在校等時間の縮減を図る。 イ・職員会議等において、教職員への啓発と意識改革を図るとともに、特に時間外勤務の多い教員の実態を丁寧に把握し、個別の業務負担を減少させる。	(1) ア・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数を70%以上にする。[R5 83%] イ・学校教育自己診断(教職員)において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数を75%以上にする。[R5 83%] ウ・学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数を85%以上にする。[R5 83%] (2) アイ・教職員の平均時間外勤務時間を、令和5年度比2%以上減とする。 [R5 12月末現在 36時間51分 前年度比4.1%減]	(1) ア・学校教育自己診断(教職員)において、「生徒情報共有、業務連携、効率化に取り組んでいる」の指数は86%であった。(◎) イ・学校教育自己診断(教職員)において、「教育活動における課題や悩みについて、教職員間で話し合うことができ、意見や提案をしやすい環境である」の指数は86%であった。(◎) ウ・学校教育自己診断(教職員)において、「地震や火災などの災害時に、迅速で適切な対応ができる態勢が整えられている」の指数は92%であった。(◎) (2) アイ・教職員の平均時間外勤務時間は、令和5年度比4.4%減であった。 [R6 12月末現在 35時14分 前年度比4.4%減](◎)